

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

- 1 一人一人の生徒を大切にし、危機管理意識を高めます。
特に危機回避（未然防止）を重視します。
- 2 多くの事案から自分ごととしての意識を高めます。
- 3 相談しやすい環境づくりに努めます。

令和8年度不祥事根絶のための行動計画

呉市立郷原中学校
作成責任者 校長 清水 秀公

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○やる気はあるが、服務研修において受け身になりがちである。 ○他校・他地域で起こった問題に対して、当事者としての意識が高まりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間計画に基づき定期的に校内研修を実施する。 ○服務研修の方法や内容等を見直し、体験的な研修を実施して自分ごととして捉えるよう当事者意識を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての教職員が、年1回以上当事者意識を持てる服務規律研修を企画するなど教職員が主体的に研修を実施するようにする。 ○自らの「ヒヤリハット」事例を教職員間で共有して、当事者意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期に1回、服務研修についてのアンケート調査を行う。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標の実現に向かう前向きな教職員集団の育成 ○不祥事防止委員会の更なる充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○この学校から不祥事を絶対に出さないという、強い使命感を持って委員会が中心となって活動する。 ○積極的な業務改善を図り、教職員同士のコミュニケーションを促進し、学校の課題は全教職員(組織)で取り組むようベクトルを揃える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月1回開かれる不祥事防止委員会で、ヒヤリハットを交流し、具体的な改善策を考えることを通して、未然防止につなげる。 ○学年会や、分掌会を中心として、めざす生徒像の実現にむけて、ベクトルを揃えて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○企画委員会で情報確認を行い、状況を把握する。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、いじめ、セクシュアル・ハラスメント等の相談窓口」の周知が十分でない。 ○生徒がどの教職員にでも思いを言える学校環境づくりをさらに推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を繰り返し行い、相談しやすい体制をつくる。 ○教職員と生徒の信頼関係を深め、相談しやすい状況をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○掲示物を刷新し、校内掲示の充実を図る。通信等で繰り返し周知を図る。各学期全保護者を対象に学校アンケートを行い、相談体制を整える。 ○生徒と教職員の信頼関係を深め、“何でも話せる、相談できる”状況をつくる為、アンケートを実施し、教育相談を定期的に持つ。声をかけやすい雰囲気をつくり、日常的に相談に応じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期に1回、生徒、保護者及び本校教職員を対象に実施したアンケートから分析し、早期対応、未然防止につなげる体制を確立する。